



こんにちは。ライブラリーニュース第2弾です。今回は、前回の布橋図書館に続いて、住吉図書館を紹介します。住吉図書館には、幼児教育や福祉などの関係の図書がそろっています。そのほかにも、絵本や紙芝居などもたくさんありますので、講義やレポートの参考にしたい人や、興味のある人は、ぜひ一度訪れてみてください。

浜松学院大学図書館 住吉分館



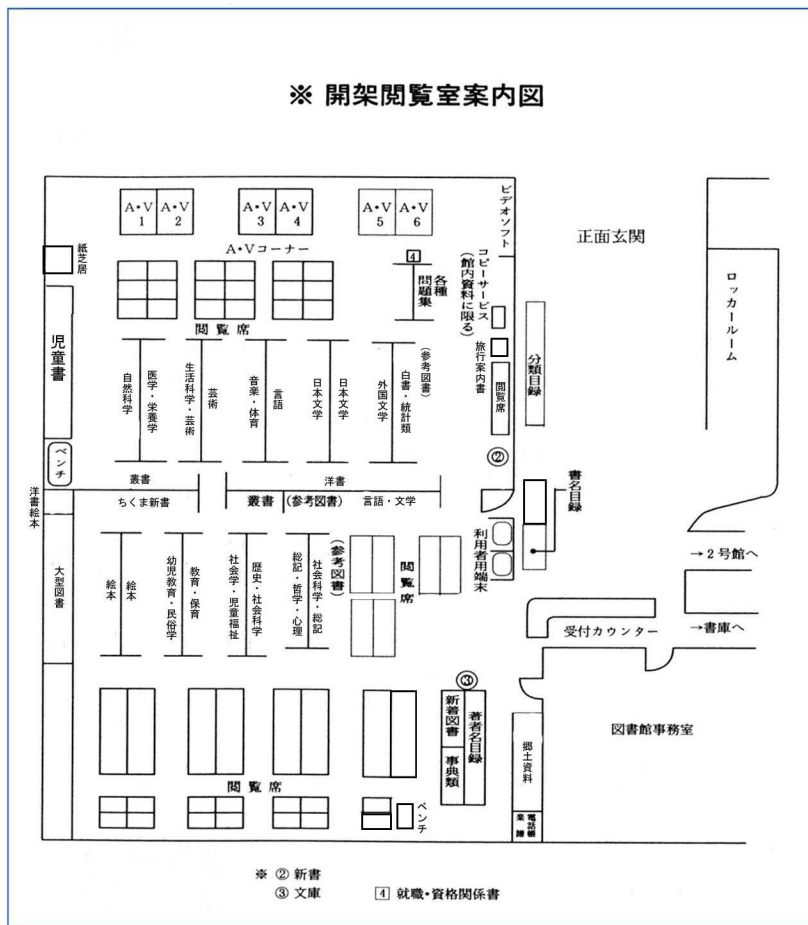
<紙芝居・絵本>



<机>
住吉図書館には、ノートパソコンのための電源やLANがないので、注意しましょう。



<雑誌>
特に雑誌は充実していて、幼児教育系だけでなく、心理系や福祉系など、静岡県西部の大学でも有数のタイトル数を誇ります。



<ロッカー>
住吉図書館は、かばんを持って入ることができません。必ず入り口のロッカーの中にかばんを預けましょう。鍵をかけるのに100円かかりますが最後にちゃんと戻ってきます。



<カウンター>
わからないことがあったら、ここでできましよう



<新着図書>

<アクセス>

- 浜松駅バスターミナル14番乗り場
 [51] 中田島泉高丘線 (せいのり廻り)
 [8] 鶴見富塚循環 (せいのり廻り)

「浜松学院大 住吉」下車 徒歩5分 (片道190円)



図書館からのお知らせ

図書のリクエストにお応えします！

ご要望の多かった小説ですが、第137回芥川賞、直木賞の受賞・候補作品を布橋図書館で購入しました。住吉分館では、“あそび”や“パネルシアター”に関する図書を増やしました。いずれの図書館でも予約ができます。ご利用ください。

レファレンス（参考調査）サービス

レポートやゼミの発表に使う資料探しで困っていませんか？ 図書館ではテーマに沿った情報入手のお手伝いをします。カウンターの職員にご相談ください。

利用のマナーを守ってください

最近、館内において声高な雑談や携帯電話で話をしたり、飲食をするマナー違反の例が見受けられます。常に自分の行動に注意を払い、規則を守って気持ち良く図書館が利用できるようにご協力ください。

ライブラリーメイトによる図書選書体験

5月29日に、ライブラリーメイトによる図書選書体験が行われました。

図書館司書である伊藤さんとともに、谷島屋本店へ行き、好きな本や、ほかの人にも読んでほしい本などを、選択しました。選書だけでなく、その後の購入伺い書の記入など、普段図書館で行われている図書購入の作業も、少し体験させてもらいました。今後も、ライブラリーメイトによる図書選書体験は考えられています。興味があり話を聞きたいという人や、図書館の本を自分で選んでみたい、図書館の仕事体験をしてみたいという人は、下記のアドレスまで連絡してください。

連絡先 g04c133mt@hgu.ac.jp

ライブラリーメイトの おすすめ本



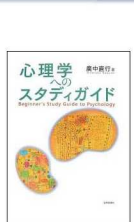
『声に出して読みたい日本語』 齋藤孝 著 草思社

声に出すということの大切さをたくさんの物語たちの一部分を読むだけで知ることができます。その物語の一部分しか書かれていないものを集めたものなので、その物語や文章の良さはまた元の書籍を読んでみるとより良いと思います。（翡翠）



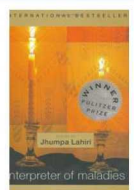
『あなたに平和が訪れる 禅的生活のすすめ 心が安らくなる「気づき」の呼吸法・歩行法・瞑想法』 ティク・ナット・ハン 著 塩原道雄 訳 アスペクト

戦争のないという意味の平和ではなく、心の安定、平穏からの世界平和・すべてが平和という意味であることを教えてくれる本だと思います。この本に書かれている呼吸法は、ぜひ試してみてください。（翡翠）



『心理学へのスタディガイド』 廣中直行 著 世界思想社

「心理学の入門書って、どれも中途半端で、なかなかいい本ってないなあ…」とお嘆きの人。出ました、ぴったりの本が。廣中直行さんのこの本、小ぶりながら、第1部「なぜ心理学を学ぶの？」第2部「心理学とは何だろう？」第3部「心理学の学び方・生かし方」の3部立てになっていますが、やさしく書かれていて、しかも中身がしっかりしていて、読者の身になって懇切丁寧に書いてくれています。心理学に興味のある人、心理学関係を志す人、絶対一読の価値ありです。騙されたと思って読んでみて。（バウアー）



Interpreter of Maladies Jhumpa Lahiri ペーパーバック（新潮社に翻訳版あり）

インド系アメリカ人作家のラヒリらしさが十二分に溢れた短編集。
”均質な生活”なんてものはどこにでもあるものじゃない、と感じさせられる作品集です。（みじんこ）



『なぜ、社長のベツは4ドアなのか？』 小堺桂悦郎 著 フォレスト出版

会計とか、決算書などについてちょっとは知っておきたい、でも、難しそう。そんな時に、あまり堅く考えずに会計についての基本知識いろいろを知ることができる本です。ただ、とてもくだけた文体で書かれているので、重要だと思うところを自分でメモして、まとめながら読むといいと思います。（浮遊生物）

腑に落ちないのは、「私から声を掛けた」という点であった。九年前、私はインドのコルカタにある「神の愛の宣教者会」本部を訪ねていた。約一年前に逝去したマザー・テレサのお墓はその1階にあり、修道女や市井の人々が熱心にお祈りをささげていた。訪問を終え、同じように靴を履こうとしていた若い男性に、「マザー・テレサの『子どもの家』への行き方をご存知でしょうか？」と私は尋ねた。「歩いて10分程ですよ」と彼は答え、比較的流暢な英語で説明してくれたが、付近の地図を持たない私のため、結局、道案内をしてくれることとなった。到着後、お礼を言い、別れた。ところが、30分後に施設から出てくると、彼がまだそこにいるではないか。聞くと、彼も市の中心部へ歩いて戻ると言う。夕日に染まる路地を踏みしめながら、彼はぼつりぼつりと身の上話を始めた。

ニューデリーの孤児院で彼は育った。貧しいながらも、ある程度英語が話せるのは彼なりに努力した結果である。孤児院を去る年齢になり、コルカタの同様の施設で仕事があると聞いて遠路はるばる訪れたものの、契約内容に齟齬があり、仕事にあぶれた。今はニューデリーへ戻る電車代さえなく、駅で寝泊りして早1週間になるという。人に勧められ、神の愛の宣教者会に支援を求めたが、修道女は「祈りなさい」と言うばかり。そこで、マザー・テレサの墓前で1時間ほど祈りを捧げた後、「私に声を掛けたのがあなただった」と言うのである。インドの旅行記によくあるように騙されているのかも？—そんな疑念を払拭できないまま、路上で焼きそばを共に食し、別れ際に電車代の足しになる程度のルピーを手渡した。その一方で、万一、跡をつけられてはと、不要な回り道を何度もしてからホテルへ戻った。

彼の話は本当だったのだろうか。生前、マザー・テレサは次のように言っている。“Being unwanted, unloved, uncared for, forgotten by everybody, I think that is a much greater hunger, a much greater poverty than the person who has nothing to eat.”（誰からも必要とされないこと、愛されないこと、気にかけてもらえないこと、忘れられること——それは食べる物が何もないことよりももっと苦しい飢えであり、さらに深刻な貧困であると私は思います）。理由はどうあれ、異国の地で見ず知らずの人に一瞬たりとも「必要とされたこと」を、私はただ素直に喜ぶべきなのかもしれない。

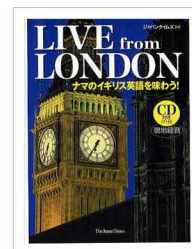
インド旅行記の推薦本：藤原新他『印度放浪』1993年 朝日文庫、沢木耕太郎『深夜特急(3) インド・ネパール』1994年 新潮社、妹尾河童『河童が覗いたインド』1991年 新潮社



マエストロ☆望月の趣味尽くし。

こんにちは、「マエストロ」望月です。
 今回からLibrary Matesに参入させて頂くことになりました。
 ということで、まずは名刺代わりに、1冊紹介させて頂きます。

LIVE from LONDON 岡田久恵 著 出版 The Japan Times
 2003年5月20日 1575円



「ナマの英語を～」と銘打っている書籍は数あれど、これは正真正銘。何たって会話に登場するのはLondonに実在する地名や店、話し手も全て素人さんばかりで台本も一切なし。プロの話し手が話している「ナマの英語」ではなく、本物の現地録音で構成されている会話やアナウンス集なのである。そんな訳だから、会話にはトチリも文法的ミスもあり、滑舌は必ずしもいいものばかりではない。

だけど、実際に私たちが旅行したり滞在したりする現地で、プロの話し手のように聴きやすい英語を話してくれる人ばかりではない。いやむしろ、聞きにくい人のほうが多いと思ったほうがいいのである。こういう会話集を聴きながら、渡英準備をされてはいかがかな。

本書は当然ながらCD付きで、先ず最初のVirgin Atlanticの機内アナウンス ‘Well, good afternoon, ladies and gentlemen. My name is James Brown(!), the first officer.’ [(!) 内筆者]で、もう既に機内食や紅茶のサービスを期待してしまう。旅客機内のアナウンスを始め、ホテル、パブなど、英国で訪ねてみたい場所での会話はだいたい押さえてあるのも嬉しいところだ。困るのは、London経験者がこのCDを聴くと、現地に飛んでいきたいことだ。英国じゃなくてやっぱり米国！という方のために、LIVE from N. Y. も同社から出版されている。

今回、布橋図書館にあるO. Henry全集の中の、*The Gift of the Magi*から一部をとりあげ、翻訳に挑戦してみました。

『賢者の贈り物』 オー・ヘンリー

貧しい夫婦、ジェームズとデラ。明日はクリスマスだというのに、プレゼントを買うお金もなく、妻のデラは、途方にくれていました…。

Now, there were two possessions of the James Dillingham Youngs in which they both took a mighty pride. One was Jim's gold watch that had been his father's and his grandfather's. The other was Della's hair. Had the Queen of Sheba lived in the flat across the airshaft, Della would have let her hair hang out the window some day to dry just to depreciate Her Majesty's jewels and gifts. Had King Solomon been to the janitor, with all his treasures piled up in the basement, Jim would have pulled out his watch every time he passed, just to see him pluck at his beard from envy.

ところで、ジェームズ・ディリングラム・ヤング夫妻には、とても自慢にしているものが2つありました。ひとつは、祖父や父の代から受け継いだジムの金時計です。もうひとつは、デラの髪の毛です。もしもシバの女王が路地の向かいのアパートに住んでいたなら、乾かすために窓からたらされたデラの髪の毛の美しさは、いっぺんに女王の宝石や宝物の価値を下落させたことでしょう。もしもソロモン王が、その財宝をこのアパートの地下室に積み上げて、ここの管理人をしていたとしたら、ジムが、そのそばを通るたびに金時計を取り出してみせれば、王はそのすばらしさをうらやましがってあごひげをかきむしったことでしょう。

"I had my hair cut off and sold it because I couldn't have lived through Christmas without giving you a present. It'll grow out again --- you won't mind, will you?"

「あなたにプレゼントもせずにクリスマスを過ごすなんて、どうしてもできなかったから、（時計の鎖を買うために）髪の毛を切って売っちゃったのよ。髪なんてまた伸びるわ。——ねえ、かまわないでしょう？」

"I sold the watch to get the money to buy your combs."

「君のクシを買うお金のために、僕は時計を売ってしまったんだ。」



ライブラリーメイト紹介

翡翠（渭原）

昔から図鑑を眺めているのが好きな子供でした。
最近、小説をたくさん読みたい気分です。

玉緒

新メンバーです。
雑食の読書大好き子です。
でもまだ推理小説には手を出してません。

レーズン

レーズン食べられるよう頑張ります!!

ネムリネズミ

清水区から通う、子コミ学科の1年生です。
読書は結構好きで、最近では自分で作品を作ることに
挑戦しています！（照）

ルマンド

絵本とマンガが大好きです。

ばあ

自分にできるコトからがんばります。
よろしくお願ひします。

Maestro☆（望月）

このライブラリーメイトでは初めましての、Maestro☆です。かなーリマニア入ってます。
ホラー、Sci-Fi、特撮、ファンタジーなど、現実離れたモノ好きのため、話について来て頂けないことが多いか
と思います。ま、授業御受講の方は既にご存知ですよね。しかーし！話にノレないよりはノレるほうが楽しいですよ！
人生楽しめることが多いほうが確実に豊かな人生が送れる筈です。皆、なんにでも興味を持ってくださいな。
初回の今回は大人しめに掲載させていただきました。今後徐々に暴走していきますので是非ついて来て下さい。